

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	マーマしのはら保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 遊育会
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒222-0026 横浜市港北区篠原町974-25
設立年月日	平成15年8月1日
評価実施期間	平成26年7月 ~26年12月
公表年月	平成 27年4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の概要・特徴】</p> <p>1 立地 マーマしのはら保育園は、JR線「新横浜」駅篠原口から出て、歩いて15分ほどの古くから開発された高台の西原住宅団地の入り口に2階建ての園舎があります。園の手前は戸建て住宅があり、園を囲む環境は全体的には静かな住宅に囲まれています。</p> <p>2 概要 社会福祉法人遊育会「マーマしのはら保育園」は2003年8月1日に開園されました。前身は1986年、産前産後のサポート「マーマ」より始まっています。2歳～5歳児定員120名で、現在129名が在籍しています。（0、1歳児46名を約1km離れた建物で保育しています）</p> <p>3 特徴 遊びと職員のあるべき姿の両面で「子どもにとって何がベストか」を考えて実行しています。 ① 遊びでは、園庭設備（建築段階から計画）やおもちゃ類の揃え方、食育では「マーマ・キッズキッチン」、運動では「運動遊びの年間予定」で、子どもの成長を考えた1年間の計画を立てて実行しています。 具体的には園庭には身体の機能を充分使うよう工夫された遊具や、園庭に隣接する山の斜面を利用して遊び場を作るなど工夫しています。近隣の公園、近隣の古民家を訪ねたり、武道館や農水池も含む運動公園などを散歩で利用しています。 保育室は全室南向きとなっています。クラス内には収納棚、パーテーション、タオルかけなど勤務員手作りの温もりを感じるオリジナル木製家具が多く用意されています。ままごと用のキッチンセットも子どもが使いやすいように、年齢ごとに高さを変えるなど手作りで工夫されています。 ② 職員教育では、前年度より計画し、今年新たに実行している「マーマ保育園・保育士のための自己評価票」はその視点において、「子どもに対しての保育士のあるべき姿168項目」を設定、職員に自己評価を提出させて、それに基づき園長が個別面接を行っています。</p> <p>【特にすぐれていると思われる点】</p> <p>1 子どもの育ちの連続性を大切にしています</p>	

① 家庭との連続性を大切に

保育園が一人一人のもうひとつの家、保育室を部屋と考え、家庭の生活の流れと連続性を大切にしています。

0～2歳児クラスでは、一人一人の登園時間や家庭での時間の過ごし方、生活パターン、習慣などを把握して、個々の生活リズムを大切に、発達過程を踏まえて少人数で、グループを作るなどし、ゆとりある保育をしています。その日の登園時間などにより、昼食の時間をそれぞれずらしたり、排泄、睡眠時間にも配慮し、きめ細かい対応をしています。園での様子、家庭での様子は0～2歳児は個別の「生活連絡票（複写式）」を使い、3歳児以上も全員連絡ノートを持ち、毎日のエピソードも織り込みながら熱心に、情報交換をしています。

②進級時の引き継ぎについて

クラス進級時の引き継ぎには「進級用引き継ぎシート」を活用しています。「進級用引き継ぎシート」には一人一人の「健康・食事・睡眠排泄・遊び・発達・家庭状況」について、詳細な内容や担任の視点が記入されています。経過記録にとどまらず、子どもの育ちの連続性を考慮しています。クラス担任間の引き継ぎ後、職員会議でも新入園児も含め、全員分の内容を報告し、全職員が情報共有し誰でもが同じ対応ができるようにしています。さらに、クラス担任が一名は持ち上がりになるよう配慮し、事前に進級クラスの保育室で子ども達が過ごすなどして、不安がないようにしています。

2 職員の資質向上への熱意ある取組みが行われています

① 会議等での職員間の情報共有を徹底しています

定期的に行われる職員会議（昼間しのはら園で開催し夕方から西園と合同で全体会議とする）、給食会議、カリキュラムミーティング、週案会議、チーフミーティング（系列園3園のクラスのチーフ職員が参加）、クラスミーティングなどで、園の状況、保育内容の検討などを活発に意見交換しています。会議に出席していない非常勤職員に対しては各会議の翌日にサポート会議を開き、内容を伝え情報共有の徹底をはかり、常に、子どもにとってベストの保育を目指しています。さらに、毎朝の業務伝達事項は「朝礼ノート」を必ず出勤職員が目を通すこととし、クラスにもコピーを配付して、伝達のもれがないよう工夫しています。

②新しく自己評価表を策定し活用しています

日々の保育の実践を重ねる中で、保育士一人一人の振り返りと課題を明確にし、資質向上と園の保育運営につながるように、今年度、自己評価表を作り直しました。

「自己評価表」は「保育理念・子どもの発達援助」「保護者支援」「組織基盤」の4分野にわたって総計168項目にわたる冊子となっています。「具体的な取り組み、考察」を記述する欄がそれぞれに設けられています。また自己評価における「評価表の視点」が書かれたシートも同時に配付され、2冊セットで活用されています。

3 地域とのつながりを大切にしています

2001年より続いている、「篠原・岸根地区地域交流教育推進会（すこやかサークル）」は、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、養護学校、PTA、自治会が連携し、音楽交流会や「すこやか祭り」などの活動および交流をしています。当園では開園後の翌年より参加し、10年目となっています。職員も実行委員会のメンバーとなっており、地域のニーズの把握や情報を得る機会ともなっています。

さらに、港北区社会福祉協議会主催の、保育園紹介イベント「わくわく子育て広場」に参加し地域の子育て中の親子に、手作りクッキーなどの食育講座やおやつを試食、わらべ歌や体操といった遊びの紹介を行っています。また、近隣の自治会の会合・敬老会・新年会には園舎を提供しています。

地域住民や教育関連機関の様々な年代の人との交流、連携により子ども達の豊かな人間形成が育まれています。

【さらに改善、工夫がのぞまれる点】

1 中長期計画の策定を

社会環境や時代の変化に即した保育園の役割と責任を果たすべく、現在、単年度ごとに綿密な実施事業計画を作っていますが、中長期計画は文書化されていません。持続的・継続的な施設運営を可能にするため、園の進むべき方向が明確に記された中長期計画の設定が期待されます。

2 さらに安全への対策を

園の門扉はオートロック式となっており、防犯カメラの設置もされていますが、駐車場側の柵が低く、子どもでも乗り超えられます。送迎時以外は駐車場管理職員が不在となり、保護者からも不安の声が聞かれます。さらなる対策が望まれます。

また地震等を想定し、保育室内の棚やロッカーの転倒防止、棚の上に置いた物の落下防止についての安全対策に一部不十分な面が見受けられました。防災マニュアルに転倒防止策などについて記載するとともに、さらなる安全対策を講じることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

・保育理念は「一人ひとりの子どもの個性と健やかな育ちを支える」「保護者の子育てを支援する」「地域住民・教育機関と協働し、地域の青少年育成活動を支援する」とあり、子ども本人を尊重したものになっています。

・職員は入職時に、理念・基本方針の説明を受けています。折にふれ園長が理念について説明し、職員会議などで確認しあっています。

・個人情報の取り扱いについてのガイドラインは未作成で、今後の検討としています。個人情報の取り扱い方法や文書管理、守秘義務の重要性などは入職時に説明し、周知を図っています。

・個人情報取り扱いについて、保護者には入園の段階で説明し、意向を聞いていますが、ホームページや雑誌掲載などで写真使用の際は、そのつど再確認をしています。

2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

・保育課程に基づいて、年齢ごとの年間指導計画・月間指導計画・週案を作成し子どもの成長や様子を良く見て、見直しをし、また子どもの希望を取り入れるなどして柔軟性を持たせています。

・3歳未満児は月ごとの個別指導計画を作成しています。特別な課題がある幼児についても、個別「月間指導経過記録」を作成しています。0歳児、1歳児クラスは個人別に登園時間・食事・授乳・排泄・睡眠のパターンを把握した、日課表を作成し、担当の職員が各々対応しています。

・子ども一人一人が興味や関心を持って遊べるように職員は一緒に遊びに入りながら、それぞれの子どもの気を配り、言葉かけをしています。

・食事は一斉ではなく、子どもの登園時間や、おなかのすき具合、その日の様子などを考慮して、順番に食事を始めています。汁物以外は、テーブルごと子どもの目の前で配膳しています。2歳児は「これくらい?」「一個?二個食べられる?」など一人一人に量を確認しながら盛り付けています。3歳児後半か

	<p>らはおかず類は自分で盛り付けています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定表は次年度分を前年度の3月初めまでには配付して、保護者が予定を立てやすくしています。偶数月に保育参加、毎月運動保育とキッズキッチン（年間を通した計画的な食育活動）の参観ができるようにし、保護者がより出席しやすいようにしています。 ・篠原・岸根地区地域交流教育推進会の活動を定期的に行い、自治会や各関係団体と交流をしています。「すこやか祭り」「音楽会」などを開催し、幼稚園・保育園・小中高校、養護学校などと連携しています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「導入保育」（ならし保育）については「入園のしおり」に具体的な進め方を明記し、入園前面接時に保護者に説明し日程や時間調整を行っています。 ・0～2歳児は個別の「生活連絡票（複写式）」で、毎日子どもの様子を伝えています。3歳以上は「連絡ノート」を全員使用して保護者とやりとりしています。 ・0～2歳児は個別担当保育者を決めています。2歳児後半から、徐々に担当制を緩やかにし、幼児クラスの集団生活にスムーズに移行できるようにしています。 ・クラス進級時の引き継ぎには「進級用引き継ぎシート」を使用し、一人一人の「健康・食事・睡眠排泄・遊び・発達・家庭状況」など担当が詳細な内容や視点を記入し、子どもの育ちの連続性を考慮しています。 ・配慮が必要な子どもについては職員会議・チーフミーティングで報告や検討が行われ、ケース記録を残しています。職員はいつでも確認できるようになっています。 ・虐待の定義、対応については職員に配付されている「運営管理マニュアル」に記載されています。子どもの心身の状態観察や保護者のようすに気を配っています。 ・運営管理マニュアルの中に苦情対応が明記されています。「入園のしおり」に苦情受付後の流れを明記しています。 ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し結果は健康診断カードに記録するとともに、保護者にはその日のうちに書面で知らせています。 ・地震対策として棚やロッカーの転倒防止、棚の上に置いた物の落下防止など、安全対策は一部、不十分な状況となっています。災害時の保護者の緊急連絡カードを「持ち出しリュック」で保管しています。また、園のホームページの保護者欄で避難先や避難状況を告知することになっており、パソコンや携帯からアクセスが可能です。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・篠原・岸根地区の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、養護学校、PTA、自治会が連携している「地域交流教育推進会（すこやかサークル）」活動に参加しています。定例会やイベントの実行委員会に参加して、地域ニーズ把握や関係機関・他施設などとの情報交換を行っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・港北区・社会福祉協議会・公私立保育園が協力して港北区内の保育園紹介を目的とした「わくわく子育て広場」を毎年9月に開催しています。 ・園のホームページ、横浜市のホームページに園の情報を提供しています。NPO法人びーのびーの発行の「幼稚園・保育園ガイド」に情報を掲載しています。保育園関係の雑誌の取材に応じています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページには園の様子や行事の内容、職員体制など紹介して広範囲に閲覧できるようになっています。 ・保育所としての自己評価と今後の見通しについては年度末の「進級説明会」で文書にして、保護者に配付、説明をしています。 ・「就業規則」に職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知しています。「運営管理マニュアル」「自己評価の視点」にも規範や倫理についての記載があり、全職員に配付されています。 ・重要な意思決定については保護者に書面で知らせ、話し合っています。園の大きな事業（分園設立）や園庭の工事などの際には、事前に保護者説明会を開き、理解と協力をお願いしました。 ・単年度ごとに綿密な実施計画を作っていますが、中長期計画は文書化されていません。次代の組織運営に備え、社会情勢をとらえ、社会福祉法人としての責任や役割を重視した新たなしくみを常に検討しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生受け入れのマニュアルがあり、事前の話し合いで実習目的・方法・要望などを聞き、効果的な実習が行われるように、プログラムを作成しています。 ・人材育成として、主任・副主任・中堅・新人と役割や経験年数に応じて、毎年、横浜市や保育専門機関の研修を用意しています。非常勤職員も研修に参加できる体制になっています。また職員会議やチーフミーティングのあった翌日にサポートミーティングが開催され、非常勤職員に内容の説明を行っています。 ・職員は年に一度、理事長、園長に「自己評価票」を提出しています。「自己評価票」は「自己評価票の視点」とともに2冊組となっています。 ・年間指導計画・月案・週案・保育日誌にそれぞれ評価反省の欄があり、子どもの育ちや意欲、取り組む課程を重視して振り返りを行うように心がけています。主任・副主任が書き方や視点の指導やチェックをしています。 ・「保育課程・実践編」に、各年齢クラスの保育者の役割が書かれています。職員会議、チーフミーティング、カリキュラム会議、日常の打ち合わせで意見交換と検討を行っています。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「一人ひとりの子どもの個性と健やかな育ちを支える」「保護者の子育てを支援する」「地域住民・教育機関と協働し、地域の青少年育成活動を支援する」とあり、子ども本人を尊重したものになっています。 ・職員は入職時に、理念・基本方針の説明を受けています。折にふれ園長が理念について説明し、職員会議などで確認しあっています。 ・保育課程は子どもの最善の利益を守るために、子どもの成長過程に沿った保育計画を作成しています。保育の基本方針は、地域との交流や、保護者の就労状況などを考慮して作成しています。 ・保育課程や年間目標については、入園説明会や在園児進級説明会で書面で配付し説明をしています。改定した時にも随時、書面を配付しています。 ・職員は子どもの意見や要望を丁寧に聞き、態度や表情からも意思を汲み取るようにしています。また必要なことは分かりやすい言葉でゆっくり落ち着いて説明しています。行動の見通しがつきやすいように前もって予告したり、時計の数字で説明するなどしています。 ・指導計画は子どもの成長や様子を良く観察し、また子どもの希望を取り入れるなど見直しを含めて柔軟性を持たせています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とはクラス担当職員が入園前に面接しています。面接時には子どもも一緒に来園し、遊んでいる様子などを観察しています。事前に保護者から提出された「児童票」「健康管理カード」および面接で聞き取ったことをまとめた「入園時面接事項」で生育歴・健康状態・家庭状況を把握しています。 ・短縮保育（当事業所は「導入保育」と称している）については「入園のしおり」に具体的な進め方が明記されており、入園前面接時に保護者に説明し日程や時間調整を行っています。 ・毎日の子どもの様子は0～2歳児は個別の「生活連絡票（複写式）」で、3歳以上は全員「連絡ノート」を使用し保護者に伝えています。 ・指導計画は年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しそれぞれ評価、反省を記入しています。子ども達の様子を見て見直しの必要があれば、クラス担当者が話し合い、変更しています。また一人一人の成長過程の把握が必要な項目については保護者との個人面談や送迎時の会話、連絡ノートで相談しながら進めています。 <工夫している事項> ・0～2歳児は子どもが愛着、安心感が持てるよう個別担当保育者を決めています。2歳児後半から、徐々に担当制を緩やかにし、幼児クラスの集団生活にスムーズに移行できるようにしています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・保健衛生に関するマニュアルがあり掃除チェック表で確認し、園内外は清潔に保たれています。各保育室にエアコン、下水管近くの保育室にはオゾン発生器を設置しており、換気扇は24時間つけていますが適宜窓を開放して空気の入れ替えを行っています。
- ・保育室は窓が大きく陽光は十分に取り入れられています。遮光についてはロールカーテンや日除けシートを使用しています。
- ・西園に温水シャワー付沐浴設備があります。本園では温水シャワーの設備が室内にはなく、園庭にあります。沐浴設備・シャワーの管理清掃はマニュアルに沿って行き、清潔に保たれています。
- ・0～2歳児クラスでは月齢や入園時期を考慮し、グループを分け、小集団保育を行っています。
- ・保育室の中で、食事と午睡の場所を区別しています。
- ・朝夕の延長保育時間、土曜日に異年齢児が合同で過ごし一緒に遊んでいます。広い廊下にある絵本コーナーやこども水族館（大型水槽）周辺、および支援スペース（共有部分のホール）も交流の場となっています。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・3歳児未満児は月間個別指導計画を作成しています。特別な課題がある幼児についても、個別「月間指導経過記録」を作成しています。気になる子どもや保育場面で配慮が必要な場合にはその日の状況を保育日誌の個別対応欄に記録しています。
 - ・個別の目標・指導計画はクラス担任で話し合うほかに、月1回の職員会議・カリキュラムミーティング・週1回のチーフミーティングで子どもの発達状況や様子を話し合い、柔軟に計画を変更・見直しを行っています。
 - ・保育所児童要録は必要に応じて就学先の担当教諭に直接送りしたり、該当小学校へ送付しています。
 - ・子どもの成長記録は、入園時に保護者から提出された「児童票」「健康管理カード」および「入園時面接事項」などは、個人ファイルに保存し、入園後の子どもの成長は、毎月の身長・体重測定の結果表や健診記録はクラスごとにまとめて保管しています。
 - ・進級時には個人別に丁寧に引き継ぎを行っています。年長児の就学にあたって、重要な申し送りがある場合には小学校教諭との連携のもとに、面談し引き継ぎを行い、教諭が子どもの様子を観察する場合があります。
- <工夫している事項>
- ・進級時の引き継ぎには、一人一人の「健康・食事・睡眠排泄・遊び・発達・家庭状況」など担任が詳細な内容や視点を記入した「進級用引き継ぎシート」を使用し、子どもの育ちの連続性を考慮しています。また3月の「スタート会議（職員会議）」で、新入園児も含め、全員分の内容を報告し、全職員が情報共有しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・配慮が必要な子どもについては職員会議・チーフミーティングで報告や検討が行われ、ケース記録を残していません。記録類は職員は誰でも確認できるようになっています。
- ・子どもの発達・療育・アレルギーなどの外部研修に参加し、研修結果を報告・回覧し、それに基づいた内部研修を行い保育に活かしています。
- ・障がい児には障がいの特性を考慮した個別指導計画を立てています。保護者とは連携をとり、神奈川総合リハビリセンター、東部地域療育センター、港北区福祉保健センターなどの助言や情報を得て保護者に伝えています。
- ・日常保育では障害のある子ども、無理のない範囲でクラス内で他の子ども達と過ごしています。職員は子どもたちに、お互いに誰でも不得意な事があり、相手を認め合う大切さ伝えるようにしています。
- ・虐待の定義等が記載されたマニュアルに基づき、主任の指導により、職員は朝の受け入れ時や着替え時に子どもの身体の様子や、態度、食事の進み具合などを観察しています。
- ・食物アレルギーについては医師からの診断書の指示に従い、保護者と状況を確認し合いながら、除去食を提供しています。食事の提供時には、アレルギーごとに色別の専用トレイに子どもの氏名・アレルギーを明記しています。食事の際には、対象の食品がある場合には誤食が発生しないように、低年齢クラスでは個別テーブルを用意し職員もそばにつくようにして、幼児クラスではテーブルで1座席分を空けています。
- ・諸外国の文化や生活習慣の違いがあっても、職員や子ども達は自然に接しています。育児に関しての考え方の違いなどは各家庭の違いとして認め、尊重しています。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・「入園のしおり」に園の要望苦情受付担当者名、第三者委員、横浜市福祉調整委員会、神奈川県社会福祉協議会福祉サービス運営適正委員会の連絡先を明記し入園前説明会で保護者に配付しています。また意見箱、各行事後アンケート、送迎時、クラス懇談会、個人面談などを要望や苦情を聞く機会としています。
- ・運営管理マニュアルの中に苦情対応手続きが明記されています。「入園のしおり」に苦情受付後の流れを明記して保護者に知らせています。
- ・日常寄せられる意見については、園長・主任に報告し迅速な対応に努めています。「朝礼ノート」（業務連絡ノート）に記載し、必ず出勤前に全職員が目をとおすようにしています。対応や経過については職員会議で話をしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕</p> 	<ul style="list-style-type: none">・遊びに合わせてコーナーを作り、絵本、おもちゃ類などのほか、ノートや工作用素材も自由に取り出して遊べるようにしています。・おもちゃ類は、子どもの発達や興味関心、季節などに合わせて入れ替えています。手指の機能を使う遊び、積木、カプラなどの構成遊びなど年齢ごとに難易度をあげています。・木のおもちゃが豊富で、収納棚、パーテーションなど手作りの温もりを感じるオリジナル家具に囲まれています。ままごと用のキッチンセットも子どもが使いやすいように手作りで工夫されています。・園庭には、アスレチック風の遊具、自然の地形をそのまま残した傾斜、築山があり、子どもたちは思い思いに遊びながらも、他の子の遊びの妨げにならないよう譲り合ったり、年下の子を思いやっている姿が確認できました。・玄関ホールに大きな水槽（子ども水族館）があり、多種類の淡水魚を飼っています。カブトムシなどの飼育も子どもたちと相談して決めています。野菜や花の栽培も盛んで生き物を大切に作る気持ちや命の大切さを自然に学んでいます。・散歩は、公園、近隣の民家の竹林など自然に触れる機会を取り入れています。公園ではドッジボールや鬼ごっこなど子どもの成長や発達に合わせて取り入れています。・幼児クラスの外国人交流、プロによる紙芝居の語り、プロの画家とともに描く大絵画会、劇団員による人形劇鑑賞など本物やプロと触れ合う体験を大切にして、子どもたちの五感を育み、感性を磨いています。また、月2回、3歳児から年齢ごとの運動遊びの年間予定表に基づいて、系統的、体系的な運動保育を専門講師を招いて実践しています。・職員は常に温かい態度、気持ち良い言葉遣いを通して信頼関係の構築に努めています。

Ⅱ-1 保育内容[生活]



・給食時、配慮を要する子どもは固定の席ですが、基本的に子どもは好きな席で食べており、テーブルごと子どもの目の前で配膳しています。2歳児は一人一人に量を確認しながら盛り付けています。3歳児後半からおかず類は自分で盛り付けています。

・食育活動及び保育園活動の集大成として、5歳児クラスは年間で毎回テーマを決め、「ママ・キッズキッチン」に取り組んでいます。他のクラスもキッチンのお仕事体験をしたり、当番活動を行っています。

・毎月お楽しみメニューがあり、子どものリクエストが多い献立や、「びよんピョン劇場」（劇遊び発表会）に向けての「頑張ってメニュー」など子どもたちが楽しめるような給食に興味を持てるよう工夫しています。

・食材は近隣の八百屋や信頼のおける業者から購入し、調理は食材のそのものを味わえるように、化学調味料は使用していません。食べやすさだけでなく素材の食感も大切にしています。

・残食は給食日誌に記録しています。毎月法人内の3園合同の給食会議を開き、子どもの嗜好を把握、確認しています。献立は3ヶ月サイクルのため、次回の作成や調理法に役立てています。

・食育だよりで毎月テーマを決めて保護者に情報を提供したり、レシピを掲載しています。その日の献立は保育室前にデジタルフォトフレームを置いて紹介しています。

・保育室内の昼寝ゾーンで、子どもは好きな場所を選んで自ら布団を敷いています。職員が絵本を読んだり、静かに音楽をかけるなど気持ちよく入眠できるようにしています。

・2歳児クラスは園での排泄状況を生活連絡票や口頭で伝え、保護者との協力連携を密にしています。

<工夫している事項>

・食事は一斉ではなく、子どもの登園時間や、おなかのすき具合、その日の様子などを考慮して、順番に食事を始めています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



・入園のしおりに健康管理を園で行うことを明記しており、職員は、子どもの健康状態を日々把握しています。

・既往症の追加・変更などあった場合は保護者から随時情報を得て経過記録に記録しています。毎年、予防接種アンケート用紙を保護者に返却、追加を記録して再提出してもらっています。

・子どもの体調変化があった場合は速やかに対応し、子ども一人一人の平熱から約1度高くなったことを目安にしているほか、微熱であっても体質など考慮し、保護者に電話連絡をしています。

・歯磨き指導は2歳児半ばから手・指の発達に合わせて実施しています。

・健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果は健康診断カードに記録するとともに、保護者にはその日のうちに書面で知らせています。

・感染症対応のマニュアルがあり、2013年度版の「保育保健における感染症の手引き」を基に対応しています。保育中に感染症が発症、または疑われる場合は、保護者に速やかに連絡しています。保護者のお迎えがあるまで職員室の簡易ベッドで休ませ、他の子どもへの感染予防に努めています。感染症発症の際は、玄関にボードを掲示して知らせています。合わせて西園や近隣の発症情報も提供しています。

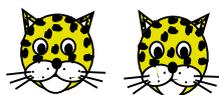
・感染症に関する情報は横浜市、港北区より随時FAX提供があります。嘱託医や保護者からの情報提供もあり、職員は共有して状況に対応しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・運営管理マニュアルのほか、別紙の「おう吐の対応マニュアル」があり、4月と10月の年に2回見直しています。
 - ・職員会議で実際の動きについて確認しています。非常勤職員にもサポート会議で勉強会を行っています。
 - ・園内外は掃除の手順書に基づいて清掃され、清潔・適切な状態が保たれています。職員が当番で清掃し、清掃管理チェック表・土曜日清掃管理チェック表記録を行っています。砂場を使用しないときはシートで覆っています。業者による布団乾燥は年3回、洗浄は年1回行っています。
- <工夫している事項>
- ・個人用タオル掛けは、他児のものと触れないように職員が考案したオリジナルです。

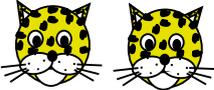
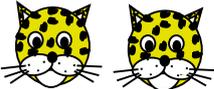
Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・防災マニュアルがあります。
 - ・保育室内の棚やロッカーの転倒防止、棚の上に置いた物の落下防止など、安全対策は不十分な状況となっています。職員室・事務室に関しても同様です。
 - ・火災や地震を想定した訓練を毎月実施しています。災害時には地域の避難場所へ移動せず、園舎に留まることを優先することとしています。園内・園庭の遊具や設備の安全点検は毎月行っています。
 - ・災害時の保護者の緊急連絡カードを「持ち出しリュック」で保管しています。また、園のホームページの保護者欄で告知することになっており、パソコンや携帯からアクセスが可能です。
 - ・職員室と事務室に近隣病院一覧、救急機関連絡先を掲示し、緊急時は速やかに対応できるようにしています。
 - ・小さなケガであっても保護者には口頭で必ず伝えていきます。ケガが発生した場合は「事故記録簿」に記録し、クラス内で反省会を設けたり、職員会議で話し合い再発防止策を検討、実行しています。
 - ・園の門扉はオートロック式となっており、保護者は暗証番号で開閉しています。
 - ・駐車場側の柵が低く、子どもでも乗り越えられます。保護者からも不安の声が聞かれます。
 - ・年に1度不審者対応の訓練を行っています。訓練はさまざまな場面を想定しています。防犯カメラを5箇所設置し、モニターで常に確認しています。
- <コメント・提言>
- ・防災マニュアルに転倒防止策などについて記載をするとともに、地震対応の転倒防止や落下防止の必要な個所の安全対策を講じることが期待されます。
 - ・防犯カメラにて常時確認はされていますが、不審者侵入防止のため、柵を高くするなどの検討が期待されます。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は子どもに話しかけるときは、職員の思いを押し付けるのではなく、穏やかに言葉かけをしています。職員間で連携を取りながらゆとりを持った保育をめざしています。 ・保育室内は、ままごとコーナーの衝立、ロッカーと壁の間には隙間があり、他の視線を意識しないで一人で過ごすことができます。非常口に通じる通路も子どもが落ち着ける場所として利用しています。 ・個人情報の取り扱いについてのガイドラインは未作成で、今後の検討としています。個人情報の取り扱い方法や文書管理、守秘義務の重要性等は入職時に説明し、周知を図っています。 ・遊び、持ち物、服装、行事の役割などで男女の区別はしないなど、すべてにおいて性差ではなく、一人一人を尊重した保育を行うため、新人研修の段階から説明しています。連絡帳・指導計画の書き方なども具体的な研修を実施しています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安げになった子どものために、クールダウンできるまで、玄関ホールの絵本コーナーを衝立で囲んで落ち着けるように配慮しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもであっても、羞恥心への配慮や自尊心を傷つけることのないよう、園庭の温水シャワーを使用する際は、目隠しを施すなどの対応が期待されます。 ・個人情報の取り扱いについてのガイドライン作成が期待されます。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「入園説明会」「進級説明会」では、保育課程、保育方針、年間活動予定、持ち物について、プロジェクターを使って丁寧に説明しています。 ・2歳児は個別の生活連絡票で保護者と連絡して、質問等には丁寧に対応しています。幼児は連絡ボードや連絡ノートを活用しています。デジタルフォトフレームも常置し、折にふれて保育の様子を伝えています。 ・2歳児は年2回個別面談を実施しています。保護者の希望や園から面談を申し出る場合もあり、各クラス柔軟に対応しています。2歳児クラスは、5月に行う「親子ふれあい遊び」の折に懇親会を行っています。3歳児～5歳児クラスは進級後早い時期にクラス懇談会を開いて、子どもの成長やクラスの様子を伝えています。 ・職員は新人保育士基礎研修や実践研修時に保護者対応の心構えや保護者サポートと保護者対応の基本姿勢などを学んでいます。 ・保護者の相談内容によっては、姉妹園の園長・主任、医療機関、栄養士、学校関係者などの意見を聞き、情報を集約して面談を進めています。相談は、個人面談シートに記録し、保護者対応関係ファイルにて継続的にフォローができるようにしています。 ・子どもの園での生活ビデオを撮って、年に1回貸し出しをしています。100%の貸し出し率となっています。 ・保護者会組織はありませんが、園を使用しての保護者自主的な活動は支援しています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度6月より、偶数月に保育参加、毎月運動保育とキッズキッチンの参観ができるようにし、保護者がより出席しやすいように改善しています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・篠原・岸根地区の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、養護学校、PTA、自治会が連携している「地域交流教育推進会（すこやかサークル）」活動に参加しています。定例会やイベントの実行委員会に参加して、地域ニーズ把握や関係機関・他施設などとの情報交換を行っています。 ・港北区・社会福祉協議会・公私立保育園が協力して港北区内の保育園紹介を目的とした「わくわく子育て広場」を毎年9月に開催しています。参加した親子の様子や子育て相談内容から子育てニーズを把握しています。 ・「すこやかサークル」や「わくわく子育て広場」活動で得られた地域の子育て支援ニーズは、折にふれ職員会議で報告し、それに基づいて話し合っています。 ・希望者に事前に電話での予約をお願いして、園庭開放を行っています。 ・「わくわく子育て広場」は地域の子育て中の親子に、手作りクッキーついてなどの食育講座やおやつを試食、わらべ歌や体操といった遊びの紹介、ベビーマッサージなどくみる・あそぶ・しる・たべるの4つのコーナーを設けて開催しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流の場で散発的な相談は受けていますが、地域に対する相談事業として、実施されることが期待されます。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は、法人内姉妹園のマーマ北センター保育園（当保育園とは立地する区も異なり、生活上の同一立地ではない）で実施していますが、相談日は月に1回程度となっています。 ・園の駐車場に掲示板を設け、園の情報のほか地域の情報も提供しています。近隣のスーパーにも協力をお願いしています。 ・「すこやかサークル」の定例会や実行委員会出席の際にも園の情報を伝えています。 ・園長と主任のほか、地域担当運営系の職員が関係機関との連携の担当になっており、必要な関係機関、地域の団体等の連絡先を「地域関係」としてファイルしています。事務所に掲示もしており、職員はいつでも確認ができます。 ・関係機関・団体との日常的な連携は、園長が中心となって良好な関係を築いています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は最低週に1回定期的実施されることが期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、卒園式などの保育所の行事に近隣の幼稚園、学校、自治会の役員を招待しています。 ・篠原・岸根地区地域交流教育推進会の活動（「すこやか祭り」「音楽会」など）を定期的に行い、幼稚園・保育園・小中高校、養護学校、自治会や各関係団体と交流をしています。 ・子ども達は近隣の古民家を訪ねたり、散歩途中や行先の公園で接した人達に挨拶しています。年長クラスは食育プログラムで使う食材の買い出しにリュックを背負い、近隣の八百屋に買い物にでかけています。消防署見学に行くこともあります。系列園との交流で年長児は電車で出かけ、駅利用時のマナーも学んでいます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページには保育の様子や行事の内容など紹介して広範囲に閲覧できるようになっています。 ・NPO法人びーのびーの発行の「幼稚園・保育園ガイド」に情報を掲載している他、保育園関係の雑誌の取材に応じています。 ・利用希望者からの問い合わせ時に園見学ができることを伝えています。見学については、保育内容や子ども達の様子を良く見てもらえるよう配慮し、9時半から16時半までの間で保護者見学希望者の都合に合わせて対応しています。見学者用のリーフレットをもとに事務長・主任・副主任が案内・説明をしています。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れのマニュアルがあり、受け入れに当たっては事前にチーフミーティング、職員会議で職員に説明し、保護者には園だよりなどで知らせています。受け入れ担当はクラスのチーフ職員とし、受け入れ記録があります。職業体験で訪れた高校生3名が継続的に週2日、保育補助ボランティアをしています。 ・実習生受け入れのマニュアルがあり、受け入れについては職員会議で目的や趣旨を全職員が共有しており、子どもたちにも話し、保護者には園だよりで知らせています。 ・受け入れ担当は主任が行い、記録を整備しています。毎年、3、4人の実習生を受け入れています。 ・事前の話し合いで実習目的・方法・要望などを聞き、効果的な実習が行われるように、プログラムを作成しています。実習の実施指導は配属先のクラス担任が行っています。毎日、クラス担任や主任・副主任と振り返りを行い、実習終了時には、園長・主任と一緒に反省会をしています。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="172 277 475 304">V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は職員との面談や会議などで意向調査や適切な配置・クラス編成を考慮し、必要な人材の採用と人事業務を行っています。人材育成として、主任・副主任・中堅・新人と役割や経験年数および適性も考慮しながら、毎年、横浜市や保育専門機関の研修を受講させています。 ・職員の経験年数や個別の目標や興味に応じて、設置法人主催の研修のほか、横浜市や保育関連機関による外部研修を組み合わせています。内部研修は音楽リズム遊び、衛生に関してなどのテーマで行いました。研修は非常勤職員も参加できる体制になっています。 ・業務面では、勤務時間・経験年数などを考慮し、常勤職員と非常勤職員の組み合わせに配慮しています。常勤職員のみが出席する職員会議・チーフミーティングの開催翌日に「サポートスタッフミーティング」を開催し、非常勤職員に前日の会議内容の説明を行い、情報共有ができるようにしています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="172 922 501 949">V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の自己評価は年に一度実施しています。「自己評価票の視点」の冊子とともに、目標設定など盛り込んだシートが完成し、平成26年11月より活用しています。 ・年間指導計画・月案・週案・保育日誌にそれぞれ評価反省の欄があり、記録の書式は定型化されています。子どもの育ちや意欲、取り組む課程を重視して振り返りを行うように心がけています。 ・各クラスで振り返りの結果を話し合い、次週の計画に繋がっています。月案・年間計画についてはカリキュラムミーティング、チーフミーティング、職員会議で話し合いが行われています。話し合いの中から課題を明らかにし、検討、改善に取り組んでいます。 ・保育所としての自己評価は理念、保育方針および保育課程に沿って行われており、自己評価と今後の見通しについては年度末の「進級説明会」で文書にして、保護者に配付、説明をしています。 <p data-bbox="678 1402 948 1429"><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ママ保育園・保育士のための自己評価票の視点」に基づく「H26年度保育士自己評価票」（平成26年2月企画開始）の実行 <p data-bbox="678 1518 1382 1783">上記視点は168項目あり、12月5日（追加ヒアリング訪問）時点では、11月17日までに全職員からの提出を受け、それを園長・主任が読んだうえで、個人面接を開始しています。評価項目は厚生労働省発行の「保育士の自己評価ガイドライン」に基づき、保育士業務の全分野にわたっています。職員ヒアリングを始めたばかりですが、職員個々の自己振り返りと園長のアドバイスが行われ、これを毎年継続することにより、更なる職員の成長と、園自体の保育サービスの質の向上が図られることと考えます。</p>

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・「保育課程・実践編」に、各年齢クラスの保育者の役割が記載されています。利用者の状況に応じ、役割が果たせるよう権限の委譲をしています。緊急時には担当職員が対応し、事後速やかに園長・主任・副主任に報告しています。
- ・職員会議や日常的な打ち合わせで意見・提案を自由に話せるようにしています。また園長は年に一度、職員と個別面接し、満足度や要望、意見などを把握しています。

評価領域VI 経営管理

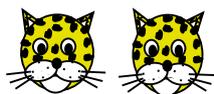
評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="165 600 582 633">VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「就業規則」に職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知しています。「運営管理マニュアル」「自己評価の視点」にも規範や倫理についての記載があり、全職員に配付されています。他施設での不適切事例などを職員会議などで取り上げて、話し合いをしています。 ・身近な素材（ペットボトル、牛乳パック、スチロール皿、紙コップ、紙皿、裏紙など）を利用し、おもちゃや工作を楽しんでいます。裏紙を利用しています。また調理で野菜の皮でスープをとっています。野菜くず、切れ端は園の畑に埋めて肥料としています。節電・節水に努めています。夏場はゴーヤ・朝顔を植えて、グリーンカーテンにしています。 ・掲示板に「当園はECOの芽を育てます」の文書が貼ってあり、取り組み例（省エネ機器導入・節水器導入・緑化促進・リサイクル活動）が記載されており、運営に活かされています。 <p data-bbox="671 1077 919 1111"><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページなどで園の情報を公開していますが、その中で経営・運営状況の公開がありません。経営状況の公開として簡単な財務諸表や運営状況を公表することが期待されます。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ・理念・基本方針は保育課程に明記し職員に配付しています。園長は職員面接時に確認するほかに、折りに触れ、話をしていきます。主任は職員に対し、日常保育の中で質問するなどして理解しているか確認しています。
- ・毎週「チーフミーティング」を行い、園全体の状況、姉妹園、他園情報などを伝え、主任クラスとチーフの育成に努めています。
- ・主任は各会議に出席したり、毎日クラスを見回って職員個々の業務状況を把握しています。シフト表を向う2か月分ずつ作成し、各職員が予定を把握しやすいように工夫しています。また必要に応じてクラスに入り、個々の職員の様子を見ながら助言や指導を行っています。日ごろから常に職員に声を掛け、話を良く聞くように努め、職員の心身の健康状態に気を配っています。

VI-3 効率的な運営



- ・事業運営に影響のある情報は設置法人および園長が神奈川県や横浜市から収集・分析しています。保育関連の情報は主任・副主任が、専門雑誌や書籍、新聞などから収集しています。
- ・重要な情報は設置法人の3園管理者ミーティングで話し合われています。運営面での重要な改善課題については職員会議で全職員に周知し、改善に取り組んでいます。
- ・次代の施設運営に備え、「チーフミーティング」の充実と各種研修実施および参加を促し、計画的に後継者を育成しています。設置法人の理事会（年に4回）で、財界人・小児科医・大学関係者の意見を収集して運営に活かしています。

<コメント・提言>

- ・単年度ごとに綿密な実施計画を作っていますが、中長期計画は文書化されていません。持続的な施設運営を可能にするため、園の進むべき方向が明確に記された中長期計画の設定が期待されます。



利用者家族アンケート

施設名： マーマしのはら保育園

2-5歳児対象アンケート

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での2-5歳児在園児数113名、全保護者94家族を対象とし、回答は61家族からあり、回収率は65%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、「満足」「どちらかと言えば満足」の合計で91%でした。

◇ 比較的満足度の高い項目（「満足」「どちらかと言えば満足」回答が98%以上の項目）

- 1)あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか
- 2)お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気があるか
- 3)園のおもちゃや教材については
(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)
- 4)給食の献立内容については

◇ 比較的満足度の低い項目（「満足」「どちらかと言えば満足」の回答が85%を下回るもの）

- 1)送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については
- 2)保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については
- 3)意見や要望への対応については
- 4)年間の保育や行事の説明については
- 5)年間の保育や行事に、保護者の要望が生かされているかについては
- 6)保育時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には
(注)「おむつはずし」と「食物アレルギー」についての項目は、保護者が「分らない」などえその他項目の回答が多かったため、85%未満の対象からは除外しました。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	8%	57%	13%	17%	5%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	58%	40%	0%	2%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	66%	18%	3%	0%	13%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	52%	36%	5%	0%	7%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	39%	43%	11%	0%	7%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	59%	36%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	54%	41%	2%	2%	1%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	51%	31%	5%	8%	5%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	44%	38%	8%	7%	3%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	31%	44%	17%	5%	3%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	62%	35%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	66%	28%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	80%	18%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	62%	33%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	61%	36%	0%	2%	0%	1%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	54%	43%	2%	0%	1%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	80%	18%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	77%	18%	3%	0%	2%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	67%	30%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	57%	28%	12%	0%	3%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56%	28%	7%	0%	9%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	61%	34%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	57%	30%	3%	5%	5%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	77%	16%	5%	2%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	77%	21%	0%	2%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	39%	38%	18%	5%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	49%	46%	3%	0%	2%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	43%	38%	14%	5%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	54%	31%	10%	3%	2%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	44%	46%	7%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	30%	49%	15%	5%	1%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	39%	48%	8%	3%	2%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	49%	38%	11%	0%	2%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	46%	36%	5%	6%	7%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	66%	26%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	70%	30%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	51%	28%	1%	0%	20%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	69%	26%	3%	2%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	46%	33%	15%	6%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	52%	39%	7%	2%	0%



マーマしのはら保育園 観察方式による利用者本人調査

◇0歳クラス

月齢や入園時期により、保育室を2つに区切り、2グループに分け生活しています

遊び

保育室内にビニールプールにゴムボールを沢山入れたものが置いてあります。ハイハイしてボールを取りに行き投げている子や、ビニールプールの中に入っている子もいます。寝転んで入っている子に職員が「気持ちいいね。プールみたいですねえ、お水だよ」とボールを水に見立てて、おなかに置いています。子どもは喜んで手足をバタバタさせています。

マットや棚を利用した小さな小屋風のコーナーで敷物の上でミニ自動車を走らせて遊んでいる子や、上から小さな玉を転がせると、きれいな音が鳴るおもちゃで遊んでいる子もいます。何人もやりたがっていると職員が「順番にやろうね」と声を掛けていました。

机の前では粘土をやっている子たちもいました。職員のマネをして、小さくちぎったり、丸めたりしています。「上手だね。どんな形になるかな」と言われて、うれしそうににこにこしながら、丸めていました。

排泄（おむつかえは独立した小部屋「おむつかえコーナー」で行っています。）

「〇ちゃん、そろそろおむつ替え行きましょうか」と職員が声かけしています。職員が、身の回り品を入れる個人用かごを出すと、声を掛けられた子は自分でおむつを取り出しています。「えらーい。〇ちゃんのおむつだねえ」それを聞いていた子も自分のおむつが入っているかごを指差しています。「みんな、偉いね。△ちゃんも一緒に行く？」それぞれ自分のおむつを持ち、職員に手を引かれて、「おむつかえコーナー」に向かいました。戻ってくると、他の職員が「よかったね。さっぱりしたでしょう」と声を掛けていました。月齢が小さい子は、職員が時間や様子を見て、沐浴室内のおむつかえ台で、交換していました。汚れていたり、かぶれている場合はすぐに沐浴やお湯で洗えるようにしています。

◇1歳児クラス

遊び

マットで滑り台にしたり、大型のさまざまな形のクッション素材で平均台風にして遊んでいるグループがあります。「〇〇ちゃん、上ってごらん」「上手に渡れたね」職員の合図や声かけでスムーズに遊んでいます。ある子が真ん中で止まってしまい、「どいてよ」「やだ」とけんかになりそうでしたが「〇〇くんが渡れないんだって。どいてもらっていい？」との職員の促しを子どもは素直に聞いています。おままごとをしているグループは自分で好きな料理を作っています。「はい先生」「わあ、なあに？おいしそうだね。」「ドーナツ」「ドーナツなんだ。あむあむ」（食べる真似をして）「あつあつでおいしいね」子どもの作った色々な料理を職員はおいしそうに食べています。

排泄

活動の節目にトイレ誘導（おむつ交換）をしています。紙パンツを脱いでから一応トイレ

に座ってみます。職員が丸めた紙パンツは、トイレ奥にあるゴミ箱に自分で捨てています。紙パンツはトイレで替え、他の職員の見守りの中、子どもは保育室で頑張って着替えています。

給食

職員1人で2人を介助します。「サラダです。いっぱい食べられる？」と確認してから盛り付けています。主食の食パンも枚数を確認しています。小食の子は自分で人差し指を1本立て1枚もらっています。3枚食べる子もいます。子どもの登園時間や、おなかのすき具合、その日の様子などを考慮して、順番に食べていくため、最後の子どもは、職員を一人占めしています。「ごちそうさま」をした後は、布団庫から自分で出して職員にタオルケットをかけてもらい、心もお腹も満足した様子で「おやすみなさい」をしていました。

◇2歳児クラス

遊び（園庭）

園庭で、三輪車や車に乗ったり、斜面を利用したスロープを、降りたり、遊具で遊んだり、職員とおにごっこをしたり自由に遊んでいます。5歳児クラスが、さんまを七輪で焼いているのを、何人かが眺めています。「何を焼いているんだろう」「うちわ使ってる」と興味津々です。職員が「上手に焼けるかな」「うちわでパタパタやって、火が良く燃えるようにしているよ」と話すと、不思議そうな顔をしていました。

（室内遊び）

線路遊びを始めた子は「線路もっと繋ごうか？走らせるならもっと大きい方がいいかもね」と職員に声掛けされて、どんどん線路を繋いでいます。友だちどうしで電車を走らせたり、くっつけたりしていました。ブロックで遊んでいる子が「Aちゃんすごいのできてるね」と声掛けされると、得意そうです。離れたスペースの机の前に座っている子達は、思い思いにパズルを真剣な表情でやっています。うまくパズルが出来た子は、満足そうに眺めてにっこりしていました。

食事

登園時間や食事のパターンを考慮して順番にグループに分かれて食事をします。

一テーブルに、3～4人が座り、職員が一人付いています。ごはんやおかずを職員がよそい、一人一人に「ごはんの量はこれくらい？今日は納豆もあるよ」と聞いています。「減らしてください」「うん、それでいいよ」と子ども達が答えていました。

納豆を盛り付けるのも「どこに置く？ごはんにかけていい？」と聞き、「お皿がいいです」「ごはんの上がいい」など様々です。テーブルごとに、いただきますの挨拶をして、食事が始まります。「納豆おいしいね」「Bちゃん、お野菜沢山食べてえらいね」「今日のおやつは何？」「ジュムサンドよ」「楽しみだな」など、楽しそうに話しながら、子ども達はもりもり食べていました。

◇3歳児クラス

食事後～午睡

食事が終わった子から順番に食器を片づけてから、自分の席で歯磨きを始めます。

職員に磨き具合を確認してもらって、うがいをしていました。布団は低い棚に一人分ずつ、丸めてあり、自分で布団を取り出し、好きな場所に敷いています。皆が布団を敷き終わるとブラインドを下ろし薄暗くし、職員が小さな声で、子守り歌や静かな歌を口ずさん

でいます。子ども達は、絵本を枕元で見たり、手足をもぞもぞ動かしていましたが、徐々に眠りについていきます。職員は、なかなか寝付けない子のそばに行き、頭をなでたり、背中をさすったりしていました。

一斉活動 室内運動プログラム

運動プログラムの専任講師が子ども達の指導をしています。低い跳び箱の上のりジャンプして、職員が持っているタンバリンに触っておける運動や、オレンジ、青、黄色のカラーコーンをいくつも並べて、専任講師が一人一人に「～色をさわってから両足ジャンプして」「今度は～色さわったらしゃがんで歩くよ」と言うと、皆チャレンジしています。タンバリンの音がすると「すごーい、高くジャンプ出来たね」「カラーコーンも色間違わずに行けたね」など声を掛けてもらおうと、子ども達はますますやる気を起こしています。順番を待っている間にも、友だちが上手にできると拍手していました。3組の保護者家族が見学に来ており、専任講師が時々保護者にも説明しています。保護者は子ども達の様子を楽しんで見ていました。

◇4歳児クラス

園庭遊び

風が強いため「先生、木が倒れそう」「台風行っちゃったのに」と言いながらも自然の地形をそのまま生かした傾斜を登ったり降りたり、シートで滑り降りたり、園でおひさま基地と名付けているアスレチック型大型遊具・三輪車など思い思いに元気に遊んでいます。グループで鬼ごっこをしたり、三輪車で連なって進んでいく子どもたちもいました。

運動保育

園舎1階子育て支援スペースで、専門講師の指導の下運動保育が始まりました。職員は講師のフォロー役です。マットに両手をつけてから片足ジャンプで進んでいく片足クマ、爆弾に見立てたカラーコーンが爆発しないうちに四つん這いの体勢でタッチしていく運動のお手本を講師が行った後、子どもたちがチャレンジします。上手にできる子、手と足が上手く連動せずバタバタしてしまう子、ちょっとズルをしてゴールする子もいます。自分の順番でないときはお行儀よく待っています。緑と赤の2本のひもをかわすプログラムは、しゃがんだり、ジャンプしたり大忙しですが、子どもたちは大喜びです。保育参観の保護者も笑顔で見守っています。

給食・午睡前

「12時までには食べることになってるんだよ」と子どもが教えてくれます。調査員が「大変、急いで食べなくちゃ」と言うと「いいんだよ急がなくて。ゆっくり食べなよ」と気遣ってくれます。配慮の必要な子どもも自分のペースで食べています。職員が「〇〇くん、どう？もう少し頑張れる？」「もうごちそうさまする？」と、さりげなく声をかけています。給食を食べ終わった子から、歯を磨き、トイレに行く子は行っています。パジャマには着替えません。収納庫から自分で布団を出し、好きな場所に敷いています。「今日は〇〇くんと一緒に寝るんだ」と仲良し同士並んでいる子もいます。職員が静かな声で絵本の読み聞かせをし、やさしいオルゴール曲の音色の中子どもたちは午睡に入ります。

◇5歳児クラス

キッズキッチン、サンマ焼き

駐車場に大きなブルーシートを敷こうとしますが、風が強く「飛ばされちゃう。持って！」

「ここ持つ」とみんなで協力してシートが飛ばされないように腹這いになって押さえています。七輪に炭を起こし、グループに分かれて生のサンマを焼きますが、「煙い」「サンマの目が取れちゃった」「すごい焦げてる」と悪戦苦闘です。保育参加の保護者も一緒に楽しんでいる様子です。焼きあがったサンマは見た目はあまりよくありませんが、自分たちで頑張ったのでとても満足そうです。事前に握っておいたいろいろな形、大きさのおにぎりと一緒に子どもたちのお腹におさまりました。あちこちのグループから笑い声が聞こえます。

けんか

2人が園庭でにらみ合っています。「僕が言ってるのに聞いてくれないの!」「聞いている!」と自分の気持ちを相手にぶつけるばかりで平行線の様子です。職員は2人の間に入り、「〇〇ちゃん是这样言ってるんだよ」などお互いの言い分に助け舟を出していましたが、相変わらずにらみ合いを続けている二人を見守っていました。

以上

事業者意見

マーマシのはら保育園
理事長／園長 丹羽勝子

○第三者評価を受けた動機

現在、保育所においても幼稚園においても「保育の質」が問われ、保育・教育活動や園運営全般にかかる評価の必要性が指摘されています。

我々も、この機に、保育の質を高めるために、多様な面からとらえてみることにいたしました。

保育の質とは、日々の保育や、短期でとらえる子どもの発達や学びについての評価、指導計画、保育課程の評価、子どもの発達や学びの評価、園評価、等です。

○実際に第三者評価を受けて

・日々の保育や子どもの発達や学びについて、全職員で評価に当たったので、一人一人のとらえ方や考え方が鮮明になり、さらに、個々の課題がクローズアップできたことは園にとっても、個々にとっても大きな収穫でした。

・指導計画、保育課程の評価についても、第三者事業機関での評価は、自己の取り組みや実践の歩みを勇気づけ、現在の子ども中心の実践活動をもっと広げたり、深めたりすることにつながっています。

・園評価、等についても、園が組織としてどのように運営されているかについて考えるいい機会になりました。

○今後の活用

今後の課題を具現化するに当たり、平成 27 年 4 月より、新保育制度がスタートする時期と重なっており、タイミングよく 27 年度の運営に活かした形で計画しました。

皆が、夢と期待感を持って質の高い保育実践に取り組む所存です。

以上